

鳩が結ぶ海を越えた絆！ 台湾から義援金！

尾内会長の友好関係が
実を結ぶ！

1通のFAXから始まった。

四月下旬1通のFAXが尾内一郎日本伝書鳩協会会長宅に届いた。差出人は台湾の周逸年さん。内容は、東日本大震災被災者への義援金贈呈の申し込み。周さんは、尾内会長と長年に渡り親密な交友関係にある台湾の友人である。

その後、4月25日(月)、東日本大震災の義援金として、31万台湾ドルが、台湾省信鳩協会の「周逸年(80)」さんより、日本伝書鳩協会(尾内一郎会長(80))を通じ届けられた。



周さん(写真右)は、毎年のように日本伝書鳩協会の総会

に招待される等、日本語も堪能の知日派で、40年以上も前から日本伝書鳩協会と友好関係を築いている。

今回の大震災に際し、周さんは、「昔、台湾で地震被害があった時に日本の皆さんから暖かいお見舞いと支援を受けました。今回はそのお礼も含めて、日本伝書鳩協会の尾内会長を通じて、日本の皆さんの復興に役立てる事を願い贈りました。」と支援の弁を語った。

日本伝書鳩協会の尾内会長はこの申し入れを快く受け、「周さんの暖かい心を一日でも早く被災された方々に届け、皆さんの復興への力強い励みとしたい」とこの申し入れを快諾した。

尾内会長(写真右下)と周さんとは40年以上にも渡る深い絆で結ばれ、現在のように台湾との交流が盛んでない時代



から相互に訪問し合い、周さん家族を1ヶ月近く日本全国を案内し、家族ぐるみの付き合いを行なっている。

周さんは、「日本人以上に日本人らしい」。気遣い、思いやり、謙譲、など暖かい心を持つ古き良き時代の日本人の姿を思い出す・・・と尾内会長は語る。

更に台湾の人たちの親日的な対応や姿勢にも心打たれることが多い。今回の震災に際



読売新聞の取材を受ける尾内会長
(2011年5月27日朝刊に掲載)

しても、国を上げて日本支援の運動を行い、短期間に15

0億以上の義援金を集めるなど支援が際立っている。過去の日本支配も、好意的に評価される面も感じられる。

1999年9月21日に発生した台湾中部地震の際、日本が見せた「過去最大規模の国際緊急援助隊を派遣」などが、今でも台湾の人々に「日本への感謝」の気持ちが入り込んで、まれている。

日本伝書鳩協会は、3月15日にも読売新聞・読売愛と光の事業団に100万円の義援金を日本伝書鳩協会会員一同として贈っており、今回もそれに続く2回目の支援となる。



義援金を贈る尾内日本伝書鳩協会会長(左)、
尾上読売光と愛の事業団理事(右)

社団法人 日本伝書鳩協会

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-21-6

ホームページ <http://www.nihon-denshobatokiyokai.org>

Tel.03-3801-2789 Fax.03-3801-3155

E-mail j-pigeon@nihon-denshobatokiyokai.org